

仙台城跡の特徴

○自然地形を利用している。

河川、断崖が、城の堀や石垣といえる。

○城下と広瀬川をはさんで位置している。

⇒ ◎都市近郊でありながら、豊かな自然環境が残されている。

◎山上にある本丸跡から、市街を一望にできる。

○城の構造に、当時の歴史情勢が反映されている

初代政宗が築城期には山上に本丸を設けるが、二代忠宗は二の丸を造営し藩庁とした。政宗が縄張り始めを行った慶長5年(1600)は、関ヶ原合戦直後の戦時体制下といえるため、急峻な崖などによる防御を固めた構造であったとみられる。

二の丸の造営を開始した寛永15年(1638)は、三代将軍家光の治世であり、幕藩体制が確立した状況である。二の丸は本丸より低い場所に設けられ、堀や石垣などの防御施設も堅固ではない。